

神々の古事記
本殿(右殿) 山王権現社

「神生み」

国生みを終えられた伊邪那岐命と伊邪那美命は、次に神を生み始められました。最初にお生みになられたのは大事の成ったことを称えた大事忍男神。そして、壁を作る石や土の神から、石砂の神、入り口や屋根を葺くことを称えた神、屋根の神、風害を防ぐ神までの家屋を守護する神々、続いて海や川を統べる神など水に関わる神々、さらに風の神、木の神、山の神、野の神、船の神、食物の神を次々とお生みになされました。その最後に、燃え盛る火の神をお生みになったとき、伊邪那美命は大火傷を負い、煩って病床に就かれました。



その時、苦しみながらも嘔吐物や糞尿から鉦山の神、肥料の神、水の神、穀物の育成を司る神をお生みになられ、力尽き黄泉国へ旅立たれました。

廣峯神社の本殿に向かって左側の右殿には、農業や稲の成長に関わる風の神、級長津彦神と級長津姫神、穀物の育成を司る雅産靈神をお祀りしています。

また、本殿裏の山王権現社には鉦山の神である金山毘古神をお祀りしています。この神様は製鉄や鋳物(農機具)に関わる神様としても信仰されています。

廣峯神社の春の大祭である御田植祭、祈穀祭に訪れられたときには、ぜひ参拝され五穀豊穰をご祈願下さい。